大阪高松教区報
3
2025

大阪高松大司教区
教区召命の日
3月20日(木・祝)
講演10:30/分かち合い13:00/ミサ14:00
共同司教座聖堂桜町教会
司式　前田万葉大司教
酒井俊弘補佐司教

性虐待被害者のための
祈りと償いの日
Day of prayer and penance for the victims and survivors of sexual abuse
2025年3月21日(金)
＊日本カトリック司教協議会会長の菊地功大司教は「2025年　性虐待被害者のための償いの日」に関する呼びかけ文を公表した。日本語・Englishのリーフレットあり ▼
参考：カトリック中央協議会「こどもと女性の権利擁護のためのデスク」▶▶▶

大阪高松教会管区カリタス大船渡ベース 活動終了
復興支援の役割を果たす

ご支援とお祈りに心から感謝申し上げます

カリタス大船渡ベースは2025年3月末日をもって活動を終了します。ベースは東日本大震災の翌年2012年1月14日に、カトリック大阪教会管区の支援を受けて設立され、全国・全世界から多くのボランティアが集まり、活動し、その拠点としての役割を果たしてきました。

ボランティアの方々は被災地の大船渡市・陸前高田市の復旧復興のために各方面で力強く活動してくださいました。

2019年11月に来日された教皇フランシスコは「一人で復興できる人はどこにもいません。誰も一人では再出発できません。展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹との出会いが不可欠です」と仰いました。その言葉に私たちは励まされ、活動を続けてきました。

同年12月からは、コロナ禍のため、ボランティアの受け入れを中断し、スタッフのみで買物送迎や多種にわたるサロン活動、スマホ教室、体操教室、陶芸教室、英語教室、そして被災者の安否確認のための在宅訪問などに取り組んできました。どれも地域の方がたに受け入れられ、とても頼られ喜ばれました。被災地の復旧復興は確実に進み、大船渡市では、計画されたハード面の工事は100％完了しました。

復興が進むにつれ、ボランティアのできる仕事は徐々に減り、またベースを訪れる地域の方がたも高齢となり、ベースに来ること自体が難しくなってきてサロン活動の参加者が減少してきました。

在宅訪問は重要な活動ですが、本来行政が行うべき仕事で、何の資格も技術も持たない私たちスタッフが行うには限界があります。ベースは復興支援のボランティアの拠点としての役割を十分に果たす事ができたと判断し、活動を終了することにしました。そのことを地域の方がたにお伝えすると、涙を流しての温かい感謝の言葉を幾人からもいただきました。

2022年には大船渡市から感謝状もいただきました。今後の改築や各種備品の処分にかかる経費なども考慮して、資金的に余裕を持って終了することを考えました。

これまでのご支援とお祈り、そしてボランティア活動をしてくださった方がたに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。そのおかげで私たち現地スタッフは地域に寄り添った活動を継続することができました。

今後、土地・建物は地元の公民館への移行の可能性を探り、また地域福祉の拠点として活用してもらえるように提案し、将来に亘(わた)ってのカトリック教会の恒久的な被災地支援となるようにと心から望んでいます。

カリタス大船渡ベース
ベース長　菅原圭一

ボランティアと一緒に夕方のミーティング

遺留品探し

どぶ上げ作業

スマートフォン教室を開き、ボランティアから操作を学ぶ

仮設住宅での生活を見学

歌っこサロン

手芸サロン

＊5月18日（日）には大船渡教会にて感謝の集いがおこなわれます。その様子は6月以降の本紙でご報告いたします。

☆☆☆☆第2回教区宣教司牧評議会
大阪高松教区修道女連盟総会研修会・ミサ　2面
☆☆☆☆性虐待被害者のための祈りとつぐないの日に向けて
青年の新年会(四国カトリック会館)
☆☆バチカン・ニュース
中島町司祭館・信徒館落正式・教会紹介　3面
☆☆いまだに続くミャンマー市民への弾圧　4面
広報委員会へのEメールアドレス=kyokuho@ostk.catholic.jp　5面

『教区報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

発行所
大阪市中央区玉造2-24-22
カトリック大阪高松大司教区
広報委員会
郵便番号　540-0004
TEL (06) 6941-9700(代表)
TEL (06) 6946-3223(直通)
FAX (06) 6946-3224(直通)
E-mail：kyokuho@ostk.catholic.jp
編　集　広報委員会
発行人　前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」あります。〈無料〉
※ご希望の場合は下記まで申込み——
「点訳版(点字本)」
教区報☎06・6946・3223(直通)
F06・6946・3224(直通)
「音訳(テープ・デイジー)」
山口さん☎F0798・34・4228

第2回教区宣教司牧評議会

赦(ゆる)しと和解の恵みを生きる

宣教する教会への第一歩

オンライン参加にも対応していたが、ほとんどが会場に集まった。特に遠方から来られた皆さまには感謝が尽きない。

第2回教区宣教司牧評議会は、大阪高松教区としての「共に歩む」姿勢を表す試みを採り、なるべく一堂に会して豊かな交流を重ねることを目的として、1月18日（土）11時に開催し、昼食を共にしつつ議題を進めていくこととした。

今回の議題は、いよいよ聖年である2025年に入ったことで、「私たちにできることは何か」を祈りのうちに分かち合うことが中心となった。まず、教区報の新年メッセージでもそれを強調されている前田万葉大司教から、争いを終わらせるゆるしと、和解の恵みである免償の大切さについて話をいただいた。また、聖年・万博委員会の担当であるヌノ・リマ神父は聖年について、その歴史や特徴、免償の条件、聖年を過ごす心得について説明された。

その後、グループに分かれて昼食と分かち合いを行い、聖年を通して信仰の喜びを地域に伝えるための工夫、聖年に関する説明を各地で継続すること、殉教者ゆかりの地への巡礼の提案、巡礼者の受け入れ、生活の中での人間関係の振り返り、霊的体験の記録活動、といったアイデアが報告された。

シノドスの最終文書が教皇フランシスコによって承認され、「宣教する共に歩む教会」へと私たちはいよいよ力強く進んでいくよう呼びかけられている。教区の信徒・司祭の代表者が集うこの教区宣教司牧評議会も、また、試行錯誤は続くが共に歩む姿を象徴する集まりへと完成されていきたい。

（文　教区宣教司牧評議会運営委員会　担当　大久保　武神父）

大阪高松大司教区修道女連盟研修会

日本殉教者の生き様から学ぶこと

研修会を通じて、私たちは殉教者の生き様から、どのような時代においても希望と信仰を持ち続けることの大切さを学んだ。

毎年恒例の年頭研修会が1月11日（土）、サクラ ファミリアで行われた。『現代人にとって日本殉教者から学ぶものは』のテーマのもとデ・ルカ・レンゾ神父（イエズス会／日本26聖人記念館館長）にお話しいただいた。

聖フランシスコ・ザビエルが日本に福音の種をまいて以来、驚く程の速さで布教され、1614年ごろは40万人の信徒がいたといわれる。しかし、豊臣秀吉の時代になってから徐々に迫害の時代になった。そのような迫害の中でも、長崎での26聖人方が受けた刑は、十字架に縛られ槍で貫かれるというものであったが、皆、喜んで刑(けいり)に服し、命をかけてキリストを証しした。刑吏たちのために赦(ゆる)しさえ神に願う高潔な姿に、見ている者たちからは同情心や称賛さえ起こり、返って励ましを与えることになった。迫害が日増しに激しくなり、信徒たちは信仰を後世に伝える「ミゼリコルド」を確立した。すなわち、①子どもに信仰を教え伝えること②病者を助けること③亡くなった人を葬ることなどに尽くした。

一方ローマでは、日本の迫害の情報が伝えられ、殉教者の遺物が敬われていた。このように、希望が見えない時に神を信じ、迫害中にも永遠の救いを信じて互いに励まし合い、喜びと希望を抱いていた姿があり、私たちが歴史に刻まれた殉教者から学ばなければ残念なことである。

現代世界において、互いに武器をもって報復を繰り返しているならば、平和は来ないであろう。

最後に、前田万葉大司教との共同司式ミサがささげられ、折しも聖年に当たり、殉教者方の取次ぎを願いながら新たな一歩を踏み出した。

（文　修道女連盟　書記　Sr布引陽子）

四国カトリック会館　青年の新年会

心温まるひととき

1月12～13日、四国カトリック会館で「青年の集い」が開催された。参加者は青年10人と松浦信行神父、髙山徹(あきら)神父、サワリムットゥ・ステ ィフェン神父3人。食事、祈り、温泉入浴、カラオケ、ミサ、ふり返りなどを行い、最後には互いにカードを贈り合うなど、充実した時間を過ごした。終わりのミサには、縁のある青年やご家族も駆けつけ、温かい雰囲気の中で締めくくられた。

「自分らしさ」を大切に

青年とともに新年会のミサ

松浦神父様は「あかいマスク」という絵本を通じて、「自分らしさを表現する」ことの大切さを伝えました。そのメッセージは参加者の心に深く沁みわたり、それぞれが自分らしさを発揮しながら歩んでいくことを願うひとときとなりました。これからも、青年たちが互いに支え合い、喜びを分かち合いながら成長していくことを願っています。

（文　髙山　徹神父）

新年会　青年と食卓を囲んで

参加者の声

Kさん…「就職すると高松に戻って来ることがなくなります。今回の皆との出会いはとっても印象に残りました」。

Yさん…「教会の集まりに参加するのが小学5年以来でした。でも、集まった人同士すぐに打ち解けることが出来て、すごい体験をさせてもらったと思う」。

Eさん…「皆で食事を準備したのが楽しかった。ベトナム春巻きの材料の肉を間違えて細かく切ってしまい、すぐに買い出しに走った」。

Hさん…「四国でカトリック青年との新しい繋がりができたのが嬉しいです。思い出深い2日間でした」。

Rさん…「コロナ禍を経て再び集まることができました。喜びと感謝に満たされた2日間でした。まわりの人と喜びを分かち合っていきたい気持ちになりました」。

Tさん…「楽しかったです。皆さんありがとうございます。また会いましょうね」。

教区内の司祭が記憶に残る、また心に残った書籍を司祭紹介を兼ねて掲載。今回は、朴起徳(パクキドク)神父が担当。

朴起徳神父から この一冊

『沈黙』(遠藤周作著、新潮社、税込693円)

パウロ遠藤周作の『沈黙』は小説ですが、歴史的な背景をもとに、著者の信仰に対する哲学的な省察(せいさつ)と問いが深く染み込んでいる、一冊の黙想集のようなものでもあります。17世紀に日本で起きたカトリック教会に対する残忍な迫害の中で「神の沈黙・苦痛と救い・文化の衝突」等に対し、まるで読者がその時代に存在しているかのような生々しい体験ができるように導いてくれます。

第一に、この作品は「神はなぜ沈黙なさるのか」という問いを作品全般にわたって繰り返し、読者もこの問いの海に入ってくるよう招きます。第二に、苦痛の中で死に向かう人間に、神による救いが果たして何を意味するのかを問いかけています。第三に、西洋の文化とこれを拒絶しようとする日本の伝統との間で起きる、さまざまな衝突を知らせてくれます。そして変化の波の中で生きていく私たちに「あなたたちはどう生きるか」、と尋ねているようです。

『沈黙』は信仰と苦痛、救いと裏切りに対する哲学的探求を含んでいる作品です。著者は「神の沈黙」という問いに挑戦し、信仰をもって生きることは果たして何なのかについて読者もその問いに加わるように導きます。

「神は本当にいるのか。もし神がいなければ、幾つも幾つもの海を横切り、この小さな不毛の島に一粒の種を持ち運んできた自分の半生は滑稽だった。」(遠藤周作『沈黙』より)

次回は森一幸神父(東京教区)です。

【プロフィール】

パウロ 朴起徳(パクキドク)神父
韓国(釜山(プサン))出身
2006年　司祭叙階
2022年　4月来日・日本研修。
2023年　11月1日　宝塚教会主任

中島町教会　聖堂耐震補強工事・新司祭館・信徒会館落成式

新春の 高知中島 落成ミサ

聖堂外観

司祭館・信徒会館

待ちに待った落成日

1月12日主の洗礼の祝日に、カトリック中島町教会聖堂耐震補強工事が完了し、新司祭館と信徒会館の落成式が行われた。

安全のうちに工事が完了できたことを神に感謝し、協力くださった多くの皆さまに心より感謝したい。落成式には前田万葉大司教を迎えて、100人あまりの参列者とともにミサに与り、落成の喜びを分かち合った。

教会聖堂は空襲で焼失したのち、昭和33年に建て直されたもの。ステンドグラスの美しいロマネスク様式の聖堂だが、建造して55年を越えて受けた耐震診断の結果は非常に厳しいものだった。聖堂使用停止を余儀なくされ、耐震対策のためには多額の資金が必要となるなど、多くの試練があったが、旧高松教区の許可を得て、教会の土地の一部を売却し、聖堂の耐震工事実施と新司祭館・信徒会館の新築を決めた。各地からの温かいご寄付や多くの祈りに支えられ、ようやく落成の日を迎えることができた。大司教様のお説教にもあったように、この落成が、主の洗礼の祝日にふさわしく、新たな聖霊が注がれる機会となり、信徒みんなが聖霊の道を整える人になりますように、この場所が集い、祈り、成長する場所となるように願い、努力していきたい。

(文　中島町教会信徒)

前田大司教からメッセージ

中島町教会紹介

☎088-872-3658
◆住所　高知市本町5丁目6-26
◆守護　無原罪の聖母マリア
◆設立年月日　1882年2月
◆信徒数　250人
◆⌂ホームページ▼▼▼

◆特色

高知市中心部、官公庁や高知城も徒歩圏内にあり、電車やバスのアクセスも良いところ。1958年に建造されたステンドグラスの美しいロマネスク様式の聖堂。2025年1月に耐震工事が完了し、隣接する司祭館・信徒会館も新築された。隣には高知聖母幼稚園がある。聖堂内、左右のキリスト像、マリア像、壁の十字架の道行レリーフは1970年代ウォード神父によって制作されたもの。教区とオブレート会の協力宣教司牧が行われている。2025年聖年巡礼指定教会。駐車場は近隣の有料駐車場のご利用をお願いしたい。事務所は木曜日休み。

◆おすすめの店

ひろめ市場は徒歩20分ほどのところにあり、土佐のいろいろな旬の食べ物を味わうことができる。また、日曜日にはひろめ市場の北側道路に日曜市が立ち、旬の野菜や果物、土佐刃物や植木や花など多種多様の出店で賑わう。

司祭紹介

1月に大阪高松教区へ
来日されました

洗礼者ヨハネ　徐裕昇(セオユウスン)神父

出身地　韓国(ソウル)
生年月日　1969年10月25日
所属　釜山(プサン)教区
司牧担当　日本語研修

シノドスの歴史は 教会の歩みそのもの

新福音化委員会より

シノドスはその背景としての歴史があります。淵源（えんげん）は第二バチカン公会議です。その流れが、福音宣教推進全国会議（NICE）となり、大阪教区の阪神・淡路大震災後の新生計画に引き継がれて今に至っています。震災30年の今年、そういった流れを確かめる意義は大きいと思います。

第二バチカン公会議

現代化がスローガンの画期的な公会議
「行動的参加」と「ともに」の実現！

1962 年から 65 年にかけて開催された第二バチカン公会議は、「現代化」がスローガンでした。つまり、その時代の世界と向き合ってこなかった教会が、真剣に 20 世紀の問題や課題に向き合うことを目指した画期的な公会議でした。

典礼改革では、ラテン語のミサの自国語化が認められ、日本では日本語のミサが始まることになります。わからないからありがたみがあるなどの意見もありましたが、日本語のミサで、参列者も司式者と式文をやり取りするなど、ミサへの「行動的参加」が実現しました。信仰者の典礼における「ともに」の実現です。

そして、現代世界憲章の意義

「天幕を広げるように」

1965 年の公会議閉幕の日、12 月 8 日に出された『現代世界憲章』は極めて大きな意義のある内容でした。最初の 1 項で、現代を生きる人びとの課題、特に貧しい人びとや苦しんでいる人びとの思いは、私たちもともにするものだと明瞭に書かれています。

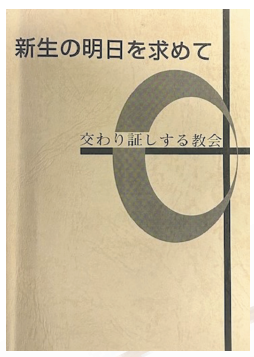
シノドスで、「天幕を広げるように」と呼びかけられたことが、公会議の中ですでに強調されていたわけです。

カトリック教会は別世界に生きているのではなく、この世界のただなかで人びとととともに生きていくことの明確な意思表示でした。教皇フランシスコが、世界の現実に向き合うように生きておられることと符合します。イエズス会のペトロ・ネメシェギ師は、「カトリック教会は改革され続ける必要があるということが公会議の意向です」と新カトリック大辞典で解説しています。

大阪教区新生計画

1995 年に阪神・淡路大震災が起こり、大変な被害がありました。大阪教区ではすぐに対応を取りました。その時に行われていたイエズス会総会で、日本管区の故ニコラス管区長（後のイエズス会総長）は他の国々の管区長から、「あなたの国の大司教はすごい人だね。自分の大司教館を売却して復興資金に充（あ）てるということです」と誉めそやされたと語っていました。その売却資金は、破壊された聖堂の復興資金、公の援助が来ない外国人学校などに使われました。故安田久雄大司教は、顧問たちからこの計画を行うことで、教区の信徒数が 3 分の 1 に減ってもいいのかと問われ、しばらく考えたのちに「それでも行う」と答えたとのエピソードが伝えられています。

震災後の教会のあり方について、5 つの教会像が教区方針として打ち出されました。



（1）「谷間」に置かれた人びとの心を生きる教会
（2）「交わり」の教会
（3）「共同責任」を担い合い、協働する教会
（4）聖霊の導きを識別しながらともに歩む教会
（5）司祭・修道者との協力を重視しながら、信徒の役割と責任（使命）を前面に出す教会

これらの方針に基づいて、社会正義や、地区・小教区のあり方が見直され、具体的な改革が進みました。福祉は良いが正義は嫌だとの意見は、社会正義なしの福祉はありえないという方向で整理されていきました。これらの項目は、正に今、私たちが取り組むべき課題とつながっています。共同宣教司牧も進みました。司祭も信徒もともに歩む教会づくりが前面に出て来た動きです。

小教区が地域社会と具体的に交わっていくという課題も明確になりました。地域と関係が深かった小教区は、震災後の救援活動で大きな評価を得ました。たかとり教会はその代表格でしょう。地域の集いに参加していたことが、長田区でのボランティア基地として区役所からも認知され、ボランティアの行先として推挙されるようになっていました。まさに、地域社会とのシノドスの歩みの先行事例でした。

福音宣教推進全国会議（NICE）

1984 年の司教協議会総会で、日本の教会のあり方について大きな変更が行われました。それまでの「各教区がバチカンとつながっている」あり方から、「日本の教会」としてのまとまりを重視する方向へと変えていくという変更でした。その具体的な表れが、1987 年に福音宣教推進全国会議を京都で行うという決定でした。

「聴き、吸い上げ、活かす」が NICE（ナイス）のモットーでした。上意下達（じょういかたつ）ではなく、人びとの声を受け止めて活かしていくという姿勢です。ここにもシノドスの方向が取り入れられていました。

1987 年の京都会議では 14 の改革提案が出されましたが、あまりその後実施されないままです。さらに、1993 年には長崎で第 2 回の会議が行われましたが、「分かち合い」を重視していくという方向自体に司教団から異議が出て、その後 NICE は終息していきました。今でも全国の声を集約する動きはにぶいままです。シノドス的な課題です。

第二バチカン公会議以来の日本の教会の歩みは、現在のシノドスの教会づくりにつながる歩みをしてきたことが分かります。かつての活発さを再現する動きが大事になってくることが理解できるかと思います。

文　新福音化委員　吉村信夫

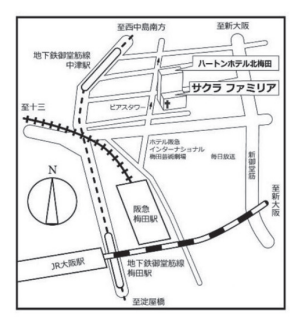
「性虐待被害者のための祈りとつぐない」の日に向けて

祈りの集い

日　時：2025 年 3 月 22 日（土）14 時～ 15 時
場　所：サクラ ファミリア
（大阪市北区豊崎 3-12-8　TEL：06-6225-8871）
祈　り：テゼと聖書による祈り（特別メッセージ）

テゼの祈りは、短く唱えやすい祈りの歌を、何回も繰り返すことによって、心の奥にしみこむ祈り、体全体の祈り、人びとをつなぐ祈りとなっていきます。

教皇フランシスコは「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けることを 2016 年に決定しました。日本の司教団は教皇の呼びかけにこたえ、その日を四旬節・第二金曜日に定め、教区では大司教が前後の日曜日にミサをささげるよう、よびかけられました。
大阪高松教区としましては被害者の皆さまの苦しみを受け止め、キリストの教会として誰もが大事にされ、安心できる共同体になるための集いの開催を望み、年 2 回祈りの集いを行っています。今年度も引き続き祈りの集いを企画しました。
子どもと女性をとりまくさまざまな問題を通して「神からいただいたいのち」をもう一度深く味わい、人を傷つけ、いのちの輝きを奪うことのないよう謙虚な気持ちでたたずみ、傷つき苦しむ人のいのちが再び輝きを放つよう祈る時間を持ちたいと思います。どなたさまもご自由にご参加ください。



主　催：カトリック大阪高松大司教区
ハラスメント対応委員会
問合せ：教区本部事務局（06-6941-9700）

バチカンニュース

大阪・関西万博のバチカン館

カラヴァッジョ作「キリストの埋葬」展示

2月1日クーデター勃発から4年

教皇、ミャンマーに停戦と対話をアピール

世界と宗教の対話を深めるために、バチカンの動向を日本の視点でお届けします。

教皇フランシスコは、2024年ミャンマーの祝日「国民の日」を前に、同国内の紛争の停戦と対話を呼びかけられた。

教皇フランシスコは、11月24日(日)のお告げの祈りの集いで、ミャンマーに停戦と対話をアピールされた。教皇はこの集いで、翌日25日がミャンマーの祝日「国民の日」であることに触れ、この祝日が同国の独立に向けた歩みのきっかけとなった、学生たちの最初の抗議行動を思い起こすものであることを紹介。

しかしながら、同祝日が展望する平和で民主的な時代の実現は、いまだ困難な状態にある、と述べられた。

教皇は、ミャンマーのすべての国民、特に現在も続く戦闘に苦しむ人びと、子ども、高齢者、病者、またロヒンギャを含む避難民ら、最も弱い立場の人びとに、ご自身の寄り添いを表明。

そして、この紛争のすべての当事者に対し、武器を収め、誠実で受容的な対話に自らを開き、恒久の平和を保証することができるようにと呼びかけられた。

2025年の聖年開幕前の文化的イベント、および大阪・関西万博のバチカン館をめぐり、記者発表が2024年10月29日、教皇庁広報局で行われた。

大阪・関西万博のバチカン・パビリオンの館長を務める教皇庁福音宣教省・世界宣教部門副長官サルバトーレ・フィジケッラ大司教や、バチカン美術館のバルバラ・ヤッタ館長らにより、バチカンは、イタリア館の協力のもと、同館内にバチカン専用のイベント・スペースを設けることで「大阪・関西万博」に参加すると発表された。

同万博におけるバチカン・パビリオンは、「希望の巡礼者」をテーマとする2025年の聖年と融合しながら、「Via Pulchritudinis」(美の道)を通して、希望と信仰を伝えていく。その中心的企画として、イタリアのバロック期の巨匠、カラヴァッジョ(ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ(1571～1610)の絵画「キリストの埋葬」の展示も発表された。

カラヴァッジョの「キリストの埋葬」は、聖フィリッポ・ネリと彼が創立したオラトリオ会にゆかりの深い、ローマのサンタ・マリア・インヴァリチェッラ教会(通称：キエーザ・ヌオーヴァ)の「ピエタの礼拝堂」のために制作されたもので、現在はバチカン美術館の絵画館に置かれている。

バチカン美術館のヤッタ館長は「キリストの埋葬」は、バチカン美術館が所蔵する唯一のカラヴァッジョの作品として、同館の絵画コレクションの中心をなす重要なものであると強調し、この作品のテーマがキリストの復活へとつながることから、すでに高く評価されており、この絵画は「希望をもたらす美」を体現しているので、同作品が聖年に日本で展示されることをうれしく思うと語った。

(バチカンHPより抜粋)

訃報

Srマリア・ルチア中川路京子(善き牧者の愛徳聖母修道会)は、1月29日、大動脈弁狭窄症・急性心不全のため大阪大学医学部付属病院で帰天。93歳。奉献生活65年。

1960年2月2日に初誓願を宣立。シスターの奉献生活は生涯、従順の誓願をこよなく愛した日々であった。若い時から、カナダ人の上長者と共に、豊中女子寮ボンパストールの創設時に運営の責任を担っていた。その後、修道会の仙台、鹿児島にある社会福祉法人の責任者、児童福祉施設での責任を担ってきた。特にシスター自身の希望により8年間、暁光会(大阪支部)での常任ボランティアとして働かれたことが、創立者聖マリア・エウフラジアの「一人の人は、全世界よりも価値がある」との精神を生きることの実践となり、最後まで祈りのうちに心の中に息づいていた。

◆　◆

Srマリア升田早苗(ショファイユの幼きイエズス修道会)は、1月31日、低酸素脳症のため宝塚市立病院で帰天。78歳。広島県出身。奉献生活53年。

初誓願宣立後、和歌山、熊本の信愛女学院の会計事務の担当者として奉仕し、その後、久留米、鹿児島、長崎の養護施設や障がい者支援施設の施設書記として、奉仕した。

2013年4月から仁川本部修道院で療養生活となり、祈りと穏やかな生活の中、デイサービスで出会う人びとや姉妹に神さまのいつくしみを伝えた。25年1月26日にデイサービス利用中に心肺停止状態となり、最後は安らかに御父の御許に旅立った。

いまだに続く市民への弾圧

教会は建物ではなく、人びとの信仰の中にある

セルソ・バシュウェ司教

ミャンマー(ロイコー教区)
司祭叙階 1994年4月16日
司教叙階 2023年6月29日

ミャンマー・カレン州のバシュウェ司教は、2021年2月に発生した軍事クーデター以降に民衆の抵抗と軍による弾圧が続き、特に宗教的少数派のキリスト教徒の教会が攻撃を受け、多くの人びとが避難生活を強いられている中で、希望を捨てず支援活動を続けている。

ミャンマーでは2021年2月の軍事クーデター以来、国軍と民衆の対立が深まり、各地で暴力が激化している。特に、民主派の拠点とされる地域では、住民が弾圧され、教会や学校などの公共施設も攻撃の標的となっている。

2023年11月、ミャンマー・カレン州のロイコー市にある大聖堂が襲撃され、バシュウェ司教はそこを放棄せざるを得なかった。市内は無人となり、特にキリスト教徒が多く住む地域は破壊されたという。教区の信徒15万人は避難を余儀なくされ、森の中の200の難民キャンプに分散している。それでもバシュウェ司教は希望を失わず、人びとと共にあることを選んだ。「私は大聖堂を持たない司教ですが、幸せです」と語る彼は、安全な場所に逃れることを勧められながらも、困難に直面する信徒たちと共に過ごす道を選んだ。「教会は建物ではありません。人びとが集まり、互いを気遣い、支え合うとき、そこに教会があるのです」と彼は語る。

現在、教区の司祭や修道女たちは避難民を支援し続けている。多くの難民キャンプではカテキスタ(信仰指導者)が不在だが、信仰を持つ人びとが自発的に祈りを導き、新たな伝道者となっているという。国際機関が支援を届けにくい遠隔地でも、教会の人びとは可能な限り手を差し伸べている。

「持っているものは十分ではありませんが、少しずつ前進しています」とバシュウェ司教は語る。混乱と弾圧の中でも、信仰と助け合いの精神が人びとの心を支えている。

大阪のカトリック病院
ガラシア病院
特徴的な医療
ホスピス・糖尿病内科
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科
医療法人ガラシア会
理事長　前田万葉 大司教
チャプレン　松本信愛 神父
看護師 募集中
〒562-8567
箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎ 072-729-2345
医療法人ガラシア会

ひとりで悩まないで
～私たちに聴かせてください～
カトリック大阪高松大司教区
ハラスメント相談窓口
※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。
電話番号:06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時～午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は必ず守られます。

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

大阪高松大司教区カリタスジャパン◆四旬節黙想会「愛の奉仕」
日時 4/6(日)9:30(ミサ)10:40(講話)
場所 神戸中央教会
講師 成井大介司教(新潟教区・カリタスジャパン担当司教)
主催 カリタスジャパン
問 ☎078-575-5294
兵庫教会　松永神父

信仰養成連続講座◆カテキズムの第２編「キリスト教の神秘を祝う」
当面休止
主催 使徒職養成委員会
問 ☎06-6941-9700

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと～エマオへの道で～◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく
日時 4/8(火)18:00～19:30(夜の部)・4/9(水)10:30～12:00(昼の部)
お話 畠 基幸神父(御受難修道会・日生中央教会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「主日のみ言葉に生かされる」
日時 3/10・4/14(月)13:30～15:00(1～4月開講)

和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべイエス』
日時 3/12(水)10:30～12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)
日時 3/17(月)・3/31(月)17:00～18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を
日時 毎月17日19:00～19:30

問 サクラ ファミリア
☎06-6225-8871
✉f.sacra@ostk.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会
日時 3/2(日)～3/23(日)14:00～15:30(4回)
*次回6/7(土)～6/28(土)16:00～17:30(4回)
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会
日時 9/7(日)～9/28(日)14:00～16:00(4回)
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎078-851-2846
✉renraku@rokko-catholic.jp
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会
日時 3/27(木)・3/28(金)10:00～15:30
指導 染野治雄神父(3/27)
山内十束神父(3/28)
参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会
日時 3/21(金)17:00～3/22(土)15:30
指導 染野治雄神父
参加費 ¥9,000

◆カトリック教会のカテキズム
日時 第1・3(水)10:00～12:00
指導 染野治雄神父
参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本
日時 第1・3(水)10:00～12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

◆新約聖書の世界への旅
日時 第1(月)19:00～
指導 山内十束神父

問 宝塚黙想の家
☎0797-84-3111

講座・研修会

講座◆小さくされた人々のための福音
日時 第3(金)10:00
場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000
主催 神戸国際支縁機構
問 岩村　☎070-5045-7127

集い

四旬節に心を合わせるテゼ共同体の歌◆曲の紹介(歌唱指導)と黙想によるエキュメニカルな祈りの集い
歌唱指導とお話
井上友里子氏(テゼ共同体長期ボランティア経験者・福岡教区)
日時 3/15(土)15:00～17:00
場所 枚方教会
主催・問 枚方教会
竹延神父　☎072-841-5333

マリッジエンカウンターウィークエンド◆婚姻の秘跡を生き生きと生きる
対象 夫婦・司祭・修道者
日時 5/3(土)～5/5(月・祝)
場所 聖ヨハネ病院修道会(神戸)
参加費 自由献金
申込・問 平尾
☎078-991-5220

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15～35歳までの若者の集い
日時 第4(土)14:00～16:00
場所 大阪YCWセンター(またはZoom)
問 レネ神父・水元
☎072-232-8063
✉osakaycw@gmail.com
HP http://www.ycw.jp/

要約筆記グループ"エッファタ！"練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア
日時 第2(水)10:00～12:00
場所 教区本部事務局1階会議室
問 障がい者委員会
✉dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い
守秘義務と分かち合い
いつ来てもウェルカム
当日キャンセルOK
日時 第3(日)14:00～16:00
場所 姫里集会所
参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)
申込 吉川(よしかわ)まで
問 ☎Ⓕ078-583-2525
✉yassan.yoshikawa@nifty.com

カ障連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会
対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方
日時 第2(火)13:30～15:00
場所 姫里集会所(奇数月)
北須磨教会(偶数月)
申込 笠松まで
問 ☎090-5661-4324
Ⓕ072-722-0271
✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

聴覚障がい者ボランティア会◆聖書の手話表現の学び・教区活動の手話通訳者派遣
対象 手話に興味をお持ちの方
※手話講習会ではありません
日時 第1・3・5(水)10:00～14:00
場所 姫里集会所
問 障がい者委員会
✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会
日時 第1(土)14:00
問 高塚　☎06-6921-0693
◆加古川教会
日時 第3(火)13:30～15:00
問 森田　☎079-426-5704

行事等日程

3月		
5	水	灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)
6	木	〔常任司教委員会〕
17	月	日本の信徒発見の聖母
19	水	聖ヨセフ
20	木	教区召命の日
21	金	大阪高松教区司教座聖堂献堂(玉造) 性虐待被害者のための祈りと償いの日
25	火	神のお告げ
26	水	10時半　司牧者のための祈りとゆるしの秘跡のつどい 14時　顧問会・責任役員会
31	金	教区会計年度末
4月		
3	木	〔常任司教委員会〕
13	日	受難の主日(枝の主日)
16	水	11時　聖香油ミサ 司祭経年祝(カテドラル)

3月司教予定

(下記行事等日程以外)

- 3/11　大船渡教会追悼ミサ(†S)
- 3/15　大阪聖ヨゼフ宣教修道女会 誓願式(†M)
- 3/15　聖フランシスコ病院修道女会 初・終生誓願式(†S)
- 3/16　姫路西ブロック黙想会(†S)
- 3/20　教区召命の日ミサ 桜町教会(†M)(†S)
- 3/22　ショファイユの幼きイエズス修道女会 誓願式(†M)
  岸和田地区典礼研修会(†S)

†M＝前田万葉大司教
†S＝酒井俊弘補佐司教

情報の掲載には申し込みが必要です

- 掲載無料
- 申し込みは、掲載希望月2カ月前の末日まで(厳守)
- 下記連絡先までご連絡ください。記入用紙をお送りします
- 掲載の継続をご希望の場合はお知らせください
- 締切日を過ぎての申し込みや教区報にふさわしくないと判断されたものは掲載できません
- スペースの関係上、掲載できない場合はご連絡します
- 編集(加筆・修正)させていただくこともございます

【連絡先】〒540-0004　大阪市中央区玉造2-24-22
カトリック大阪高松大司教区広報委員会
☎06-6946-3223(直)　Ⓕ06-6946-3224(直)
✉kyokuho@ostk.catholic.jp

案内・報告

2024年度冬 人事異動(3次)
※（　）内は現任地。
【姫路地区】
▽Frレネ・パシト・カンデラリア(淳心会本部)は豊岡教会 小教区管理者　2月1日付

主日ミサ時間変更
【和歌山紀北教会　古屋聖堂】
▽9時
【甲子園教会】…タガログ語
▽第3日曜日→第2日曜日

はばたき

昨年の待降節黙想会のテーマは「主の道を整え、その道をまっすぐにせよ」であった。

加古川教会にはさまざまな国籍の信徒が在籍する。コミュニティ毎に分担し、前庭の馬小屋、ロビーの飾り付け、聖堂の祭壇……それぞれの文化や習慣を取り入れて、ともに祈り、皆で「主の道」を整えクリスマスの準備を行った。国や言葉が違ってもキリストを待ち望む思いは皆同じであることを実感。高齢化が進む日本の教会にとって外国籍信徒コミュニティの力は心強い。これからも互いに協力し合いながら共同体として歩んで行きたい。

姫路地区　伊藤まり

リスナーの方募集中！ 小さきテレジアの会

「大阪高松教区報」を音訳し、データCDに録音して、大阪高松教区の視覚障害者の方々にお送りしています。
データCDは、プレストーク・パソコン・MP3対応のCDラジカセで聞くことができます。

音訳というのは、一般に認識されている朗読とは、すこし違います。書かれている内容を正確に、あまり感情をこめすぎずに、ニュースを読むアナウンサーのイメージです。

問合せ　夙川教会小さきテレジアの会
☎　0798-22-1649
Fax　0798-34-3585
担当：音訳(デイジー)山口